

「千里の道も一歩から」

校長 桐野 和之

皆さんは日本地図や世界地図を見たことがあると思いますが、どのようにしてつくるのか知っていますか。今なら飛行機や人工衛星がありますから、高い空から土地のようすを見ることができます。しかし、そのような乗り物がない時代にも地図はありました。では、どうやってつくったのでしょうか。今号では、今から約200年前の江戸時代に、日本で初めて実測による正確な日本地図をつくった伊能忠敬という人物を紹介します。



伊能忠敬は1745年に、現在の千葉県九十九里町に生まれましたが、佐原の伊能家の養子に入り、そこで酒造りや川船による運送業などの商売に励みます。そして、50歳になったことをきっかけに、家の仕事を長男に任せて、江戸、今の東京に出てきました。江戸で幕府の役人であった高橋至時という人の弟子になり、西洋の天文学や数学、測量術の勉強を始めます。そこで勉学に励み、やがて日本の地図をつくることを決意し、全国を測量する旅に出ます。忠敬55歳の時でした。

地図をつくるには、正確に距離を測らなければなりません。忠敬が距離を図った主な方法は歩測でした。一間、今の長さで言うと180センチメートルを二歩で歩く練習を徹底的に行い、一歩、二歩と数えながら日本全国を歩いて距離を測ったのです。忠敬の測量の旅は、第一次から、第八次まで、十八年間にも及びました。



北海道を実測したときの忠敬の日記に「海岸は、砂や小石、所々大きな石があって歩きにくい。また、高くそびえ立った大岩があり、危険であった。波が寄せてきて歩けないところもあった。時として波をかぶり、二から三百メートルも戻らなければならないこともあった。そのうえ、険しい山道を越えたり、橋のない川を渡ったりした」ということが書いてあります。こんな苦勞をしながら忠敬は、日本全国、北は北海道の東の果てから、南は九州の屋久島まで十八年間に渡って歩き続けました。その距離を合計すると、四万キロメートルにもなります。四万キロというと、地球一周分になる距離です。

忠敬が亡くなってから二年後、日本地図は弟子たちによって完成されます。それは「大日本沿海輿地全図」、別名大伊能図と呼ばれ、現在の地図とほとんど変わらないぐらい正確なもので、明治時代になってからも広く使われていました。たいくつで苦しい一歩一歩が、気の遠くなるような四万キロメートルになり、すばらしい日本地図になったのです。忠敬の日記を読んでいると、一歩一歩、歩みを進めない限り、日本地図はできないと考え、自分を励まし続け、耐えに耐えた忠敬の姿が目に見えてくるようです。

皆さん「千里の道も一歩から」という諺があるのを知っていますか。どんな長い距離を行くにも、一歩から始まるということから、夢や願いを実現させるためには、少しずつの努力を積み重ねることが大切であるということを知っています。皆さんは、今、いろいろな夢をもっていると思います。夢を実現させることは、簡単ではありません。長い時間がかかることだと思います。でも、けっしてあきらめないでください。その夢を実現させるために「千里の道も一歩から」、日本全国を歩き通した忠敬のように、一歩一歩の努力を大切にしてください。

拉致被害者ご家族を招いての人権講話

6月29日(金)に3年生を対象とした人権講話を実施しました。講師にお招きしたのは拉致被害者となっている横田めぐみさんの弟(双子のご兄弟の一人)、横田哲也さん。

最初にDVD「めぐみ」を視聴しました。横田さんのお子さん二人は貫井中学校を卒業しています。

横田めぐみさんが拉致されたのは1977年の11月15日。部活動の帰りに事件に遭っています。その時、今日お見えになった哲也さんは小学校3年生。講演を前にお話を伺うと、姉が突然いなくなり、ご両親が慌ただしく右往左往していたようすを昨日の出来事のように語ってくれました。

講演を前に、生徒たちは横田さんと一緒にDVDを見ましたが、一体どのような心境だったのでしょうか。

画面にはお姉さんや自分が幼い頃に住んでいた家。そして自分の家族五人の写真が映し出されていました。これらのすべてのことが、弟である哲也さんの記憶には、きっと生々しく残っていたのだと思います。それを考えると胸が痛みました。家族である姉を何とか救いたい。また、現在、高齢になられたご両親(父:八五歳 母:八二歳)が生きている間に何とか姉に会わせたい。その強い思いや願いを講演で語ってくれました。

DVDは横田さんの姉、めぐみさんが誕生する昭和四〇年の場面から始まります。四年後には双子の弟が生まれ、お正月におせち料理が出ており、家族で過ごす場面も描かれていました。どこの家にもありそうなシーンですが、他と違うのはそのありきたりの家族のようすが、突然拉致という出来事で一変してしまったことです。それが人権の侵害である。横田さんは強く語ってくれました。また、今日の自分の話をぜひ家に帰って家族の方にお話ししてほしいとも言っておられました。当たり前前の家族の絆が四〇年間以上に渡って遮断されてきた。話を聞いていて、なぜこのような思いをしなければならないのか。子どもたちとともに考える機会になりました。



セーフティ—教室 (薬物乱用防止教室)

7月9日(月)の薬物乱用防止教室では、警察の方々の講話とともにDVDの視聴を行いました。

なぜ悪いということが分かっていながら薬物等に手を出してしまうのか、DVDを通じて学びました。

特に薬物等に誘う常套句として、「私が保証するから大丈夫」、「頭がすっきりして勉強もはかどる」、「ダイエットにもなる」、「体に合わなかったらすぐに止めれば良いしすぐに止められる」、「みんなやっているから」などいろいろな勧誘の手口があると語られていました。

しかし、その時にこそ勇気をもって「いいません」「興味ありません」ということをしっかりと毅然とした態度で言えることが必要なのです。なぜなら、たった一度の行為がすべての破滅に繋がるからです。

また、薬物の種類についてもいろいろとビデオを見て学び



ました。葉っぱ、E、Sなどのドラッグについてのいろいろな呼び方も紹介されました。例えば葉っぱは、大麻、マリファナ、グラス、チョコと呼び名が付いている。Eは、MDMA、MDA、エクスタシーゴーストなど。Sは、覚醒剤、スピード、シャブ、アイスなどです。

カッコイイ名前が付いているため、その名前に騙されたり、呼び方によって軽く考えたりする傾向もあるようです。だからこそ呼び方もしっかりと知ること、薬物には近づかない意思をもつことが大切なのです。

さらに、最後には違法ドラッグの話も出てきました。お香、試供品、観賞用ハーブという偽りの呼び名には十分に注意してほしいと呼びかけがビデオにありました。これは麻薬や覚醒剤への入り口で、特に無料のサイトは危険で誘い込まれる危険性があるということでした。

最後に警察の方々の話で、一度でも覚醒剤等に手を出してしまうと、脳が死に、ダメになってしまうという話がありました。二度とやらないと思ってもある日、突然フラッシュバック現象が起こりまた手を出してしまうことがあるそうです。

薬物乱用防止教室を通じていろいろ聞いたり、見たりしましたが、様々な事例を聞くと本当に怖いのです。どんなことがあっても手を出してはいけません。

昔、テレビで次のような呼びかけがあったのを思い出しました。

「人間やめますか、覚醒剤やめますか」薬物に手を出す恐ろしさを語っていた広告機構のCMです。

「雑感」

まもなく夏休みが始まる。子どもの頃の夏休みのことで良く思い出すのは、夏休み最終日のもの悲しさと2学期の始業式。

北海道の2学期始業式はだいたい8月17日か18日。小学校の時の始業式の朝、家でテレビのニュースをぼんやりと食事をしながら見ていると、本州の小中学校はあと二週間も夏休みが続く事を知り驚いた。これから宿題を仕上げていくということがテレビで話題になっていた。その話を聞いて言いようがないくらい羨ましかった。

40日間も夏休みがあるのか。北海道は25日間。夏と冬を合計すると北海道も本州も変わらないのだが、なぜか夏休みが長いということが子どもの感覚ながら羨ましかった。小学生ぐらいの頃はたぶん、夏休みは外出できる時間が長かったからだと思う。ただ、冬休みは外で遊ぶことと言えば学校の校庭でスケートをしたり、どこかの坂でミニスキーをしたりすることぐらい。

例え日中、日が差していても外気は暖かくてもマイナス5度ぐらい。その中でできる遊びは今思い出しても限られていたと思う。しかし、家の中で何をして遊んだのか良く思い出せない。

中学生の夏休みの思い出と言えば2年生の時に柔道部で北海道の代表として全国大会に出場(1973年)したこと。北海道で優勝したことが奇跡だった。

25日間の夏休みはすべて柔道に費やし、朝9時から12時半までの練習。練習が終わったときに誰もいない体育館でこっそりと柔道部員でバスケットボールをして遊んだことがつかの間の楽しみだった。さらに、帰りがけにみんなで当然のようにアイスを食べた。それがたまらなく美味しかった。

部活動後に家に帰って何をしたかは全く覚えていない。ただ、夏休みの宿題だけはやった記憶が残っている。その繰り返しで、全国大会出場のために遠征した先が宮城県の



仙台市。大会を終えて釧路に戻るとすでに2学期の始業式は終わっていた。あっという間に駆け抜けた25日間。良く思い出せないことも多いが、充実していたことは間違いない。今振り返ると、その夏だけで体も心も大きくなったように思う。貫井中生にも心が熱くなる思い出を作れる夏休みにしてほしい。

部活動等の報告

剣道部…練馬区中学校総合体育大会剣道大会：平成30年6月17日(日)

結果：個人 男子 3年 Iさん(一回戦敗退)、2年 Kさん(一回戦敗退)

女子 2年 Oさん、Yさん(一回戦敗退)

団体 男子 一回戦 5-0(対 谷原中)

二回戦 0-4(対 上石神井中) 敗退

女子 一回戦 0-4(対 中村中) 敗退

第3ブロック夏季剣道大会：平成30年6月24日(日)

結果：個人 男子 3年 Iさん(二回戦敗退)、2年 Tさん(一回戦敗退)

女子 2年 Oさん(一回戦敗退)、1年 Nさん(二回戦敗退)

団体 男子 一回戦 0-3(対 大泉中) 敗退

女子 一回戦 0-4(対 開進四中) 敗退



サッカー部…練馬区夏季総合体育大会 3位決定戦：6月23日(土)

結果：0-2(対 武蔵中) 練馬区4位でブロック大会へ

第3ブロック夏季大会：7月1日(日)

結果：一回戦 0-2(対 宮前中) 敗退



卓球部…第56回練馬区中学校総合体育大会卓球大会：6月23日(土)・30日(土)

結果：男子団体(ベスト8) 2回戦3-0(対 大泉北中) 3回戦0-3(対 石神井南中)

女子団体(ベスト8) 1回戦3-2(対 開進二中) 2回戦0-3(対 田柄中)

男子個人 3年 Kさん(ベスト9) 都大会出場(練馬区から12名)

3年 Mさん(ベスト32)

第45回キューボラ杯卓球大会(カデットの部)：7月7日(土)

結果：3年 Kさん(予選リーグ1位通過、決勝トーナメント1回戦敗退)

3年 Mさん(予選リーグ1位通過、決勝トーナメント1回戦敗退)

1年 Sさん(予選リーグ1位通過、決勝トーナメント1回戦敗退)

※他参加生徒は、予選2位・3位で、順位トーナメントへ



バドミントン部…練馬区中学校総合体育大会バドミントン大会：7月1日(日)・8日(日)

結果：団体男子 1回戦0-2(対 豊溪中) 敗退

女子 1回戦2-0(対 八坂中) 2回戦0-2(対 大泉中) 敗退

個人男子シングルス 3年 Kさん 3回戦敗退(ベスト16)

3年 Kさん、Hさん 1回戦敗退

男子ダブルス 3年Tさん2年Gさん組、2年TさんYさん組 2回戦敗退

2年Kさん・Sさん組 1回戦敗退

女子シングルス 3年 Kさん、Kさん 2回戦敗退

3年 Mさん 1回戦敗退

女子ダブルス 3年Kさん・Sさん組 第6位

3年Oさん・Hさん組 ベスト16

3年Oさん・Sさん組 3回戦敗退

3年Kさん・Mさん組 2回戦敗退

